

## 令和3年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

P T A名	静岡県立伊豆の国特別支援学校 伊豆松崎分校 P T A
学 校 名	静岡県立伊豆の国特別支援学校 伊豆松崎分校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input type="checkbox"/> 小学部 <input type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	17人

### 1. 使用状況

寄贈物品名	トーンチャイム
使用学年及び人数	高等部全学年(17人)
使用頻度	11月～2月までの間(音楽の授業 毎時間)
使用状況	音楽の授業「楽器に親しもう」で使用した。トーンチャイムを含め、合奏を行い、校内で発表会を実施した。
物品の使用による変化や効果	これまでもトーンチャイムを使った授業は行っていたが、寄贈していただいたことでトーンチャイムの数や音階が増えたため、演奏できる曲が増え、更に幅広い表現活動ができるようになった。また、毎年演奏経験を積み重ねることにより、複数の音を担当できる生徒も増え、技能が高まっている。よりよい演奏のための工夫ができるようになったことで、活動への意欲も増している。
今後の活用の見通しや課題	今後も、音楽の器楽を扱う単元で、様々な曲の演奏に取り組み、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を高めて、音楽の楽しさを味わえるようにしたい。
その他希望や所感など	生徒数が減少し、グループ別での演奏が難しくなったため、実態差の大きい集団で合奏を行わなければならなくなっている。そのような中で、どの生徒も音を鳴らすことができるトーンチャイムは、すべての生徒が参加して一つの曲を演奏するのに大変適した楽器であると感じる。

## 2. 活用の様子



・音の鳴らし方、止めかたを確認しました。



・腕を大きく動かし、音が美しく響くように練習しました。